

第1回緑の基本計画検討部会 摘録

1 開催日時

令和6年6月17日（月）午後2時～4時

2 開催場所

京都市役所分庁舎4階 第6会議室

3 出席者（五十音順、敬称略）

委員

7名出席（欠席なし）

委員 天野 晴美

委員 井原 縁

委員 谷 萌子

委員 内藤 光里

委員 深町 加津枝 ※本部会において部会長に指名

委員 町田 誠

委員 山田 豊久

事務局

建設局みどり政策推進室

室長 永田 盛士

事業促進担当部長 朝山 勝人

みどり企画課長 山本 真史

担当係長 兼村 星志

4 次第

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) あいさつ

(4) 議題

次期緑の基本計画における基本理念、将来像、基本方針、目標の方向性

(5) 閉会

5 会議録 <委：委員、事：事務局>

議題：現行計画について

委：

現行計画の構造自体が複雑で、初めて見る方には分かりにくい。

委：

みどりにこだわることなく、生き物や生活者など、都市や暮らしに関する包括的な価値観を計画で語るぐらいの意気込みでアプローチするのが良い。目標や目的を大きく打ち出すなど、割り切った作り方をしてはどうか。

委：

どのようなみどりが計画に含まれるのかがわかりにくい。あらゆるみどりを対象とすることを、分かりやすく伝えるべきである。

委：

計画は素晴らしい内容であるのに、市民に知られていない。難しい印象を受けるので、一般の方でも手に取りやすい作りにすべきである。

委：

緑の基本計画は、まちの環境や風景をつくっていく大事な計画である。書き方に関しては、柔らかさを意識してほしい。

議題：基本理念の方向性

委：

「千年の都」は京都ならではのキーワードだが、千年は昔から今までの話。それよりも、これから私たち、それから私たちの子孫が暮らすところを目指すということで、「千年先の京都」はどうか。

委：

事務局案は、文として見るとギクシャクしているように感じる。「山紫水明のまちで緑の文化を育み、彩りあふれる京都へ」ではどうか。

委：

やわらかさや語句が持つ意味の広がりや踏まえ、「緑」ではなく「みどり」としてはどうか。ひらがなとした趣旨が、しっかりと伝わるように計画で定義すること。山紫水明は京都の魅力や風景の特性を考える、とてもキャッチーな言葉であると思う。

委：

新たなみどりを作れば良いというものではなく、今あるものを、育て、守っていく姿勢が大切である。

委：

市民が暮らしの中で緑を実感できることが重要だと思っており、それが伝わると良い。

委：

京都市は子育てに力を入れているので、子どもや未来の世代に対しての思いを含められると良い。

委：

案文について、長くなりすぎないように注意し、京都らしさを重視して検討してほしい。

議題：将来像の方向性

委：

色々な人たちと将来像を共有できるように、抽象的なイメージと具体的なイメージを組み合わせるのが良い。

まちにおいて、建物の間にみどりを創っていくのではなく、建物の一番下のベースに全てを貫くインフラとしてみどりがあって、そしてまちがあるといったイメージで、一体性のある鳥瞰図が描けるのではないかな。

委：

イメージが伝わるそのスケールがあると思うので、伝えたいイメージに合わせてスケールを選択すべきである。

委：

山ならば全て緑色で良いということではなく、質のことを考えると、よりきめ細やかな色分けが必要になるのではないかな。

委：

現状と未来がそれぞれ示され、どう変わっていくのかがわかると良い。

委：

動画のようなイメージで、遠景から近景にズームできると分かりやすい。

委：

春なら桜が咲いているなど、季節の表現があると、彩りを表現できるのではないかな。

議題：基本方針の方向性

<基本方針全体について>

委：

3つにまとめるのであれば、このカテゴリーで良いと思う。

「公民連携・マネジメント」の視点は、全体を支える、目指すべき社会構造ということになるのではないかと。要は、「みんなでやるんだ」ということが伝わる言葉があれば良い。

委：

3つの視点に使われている「×（クロス）」には違和感がある。

委：

「×」があるために難しく感じられてしまうので、「・」で良いのではないかと。

<基本方針①について>

委：

いのちに寄り添う、人を含めあらゆるものにやさしいまちを目指すことを強く打ち出していくべきである。持続可能というキーワードは重要である。

委：

みどりだけでなく、その中で生きている動植物も含めて生物多様性の概念と考えて、平仮名の「いのち」を使うのは良いと思う。

<基本方針②について>

委：

C案の「人のつながりとくらしの安全」は平易で分かりやすい。

委：

受け継がれてきた文化を緑で紡いでいくというのが大事である。一方でそれが暮らしの側にあり、暮らしを支えているという考え方を表現できないか。

委：

A 案の「絆と文化を緑で紡ぎ」は良い表現である。

委：

「紡ぐ」は温かい、幸せなイメージにつながるので、良い言葉だと思う。

<基本方針③について>

委：

「輪を広げる」という表現を推したい。

「庭園文化」を思い切って入れるのはどうか。「庭園文化都市」という言い方は、全国を見ても京都でしか使えない言い方である。

委：

既に京都は庭園文化都市であるので、文末を「目指す」等にしてしまうと違和感がある。

委：

ブラッシュアップするという意味で、「継承する」で良いのではないか。

<案文>

基本方針①：『いのちに寄り添う持続可能なまちを目指す』

基本方針②：『絆と文化をみどりで紡ぎ、安全で豊かな暮らしを育む』

基本方針③：『みどりと人の輪を広げ、美しい庭園文化都市を継承する』

総括：今後に向けて

委：

計画のフレームとして、人口が 144 万人から 2050 年までに 20 万人減少するという変化はとても大きい。ここに対するメッセージをきちんと示すべきである。

(以上)